

「虹の架け橋教室」の今後の対応等について

平成 26 年 9 月

1 定住外国人の子供の就学支援事業（「虹の架け橋教室」）について

(1) 平成 21 年度補正予算により、国際移住機関（IOM）に基金を設置して実施（約 37 億円）。

→リーマンショックを契機とした外国人の子供達の不就学の増加への対応が目的。日本語等の指導教室の実施に対して、日本語や教科の指導を行う教員やその補助員、公立学校やブラジル人学校等への受入促進を図るコーディネータの配置等を行っている団体に対して支援。

(2) 事業としては、平成 21 年～23 年度の 3 年間の予定であったが、その後、平成 23 年度の時点で残額があり、また、当時は、不就学者数も依然として多かったことから、基金を平成 26 年度まで延長。

(3) 最近の傾向として、在籍する子供の国籍の多様化、過年齢の子供への対応等が挙げられる。

2 今後の対応予定

- ・引き続き、IOM に資金を拠出して実施。
- ・平成 27 年度概算要求額：1.2 億円
※IOM に対する運営費を含む。

(参考)

- ・ 1 件当たりの実施額
約 1,600 万円（平成 24 年度実績）
- ・ 実施団体
22 団体（平成 26 年度）
団体内訳：市町村 3、ブラジル人学校 3、NPO 法人等 16
- ・ 就学実績（平成 21 年度から平成 25 年度までの累計）
公立小中学校等：1694 人、公立高校等 445 人、ブラジル人学校等：1304 人
- ・ 言語別内訳（平成 25 年度）
ポルトガル語：36%、タガログ語：33%、中国語：13%、スペイン語：12%、
その他：7%